

# 合併の判断は住民投票で



「道義的責任」「法的に処理」で意見対立  
「議長としての責任を果たすべき」とする意見が相次いで出されました。これに対し、日本共産党の梶昇司委員は「道義的責任は議長本人の問題、法的に粛々と処理していかないと問題は解決しない」と主張し、議論は紛

町議会第11回臨時議会が22日開会されました。しかし、開会前に山口猛議長が議長辞職願を提出したため、その取り扱いをめぐる議論は紛糾しました。結局、予定されていた本町と鶴岡市・藤島町・櫛引町・朝日村・温海町の6市町村の合併関連議案の審議は行われず、臨時議会は閉会しました。28日に再度合併関連議案を審議するための臨時議会が開会されず。

## 臨時議会、合併議案、審議入れず閉会 当局の強硬姿勢が、伯仲の中で混乱招く

「道義的責任」「法的に処理」で意見対立

辞職願提出後、その取り扱いを協議するため議会運営委員会が開かれました。

その中で、合併賛成の立場をとる委員から「重要議題が審議される当日にいきなり辞職することは道義的に許されない」「議長としての責任を果たすべき」とする意見が相次いで出されました。

混乱の真の原因は、山口議長の行動がすべての原因のように見えてしまっています。確かに、辞職願の提出がなければ、あのような混乱は起こらなかったでしょう。

しかし、混乱を招いた真の原因は、住民の意思を確認しないまま合併議決を強行しようとした、町当局や合併推進勢力の強硬姿勢です。

議会が伯仲状態で、町民世論も二分している中、



住民投票の実施を拒否し、議会の議決のみで乗り切ろうとする町長など合併

推進勢力の姿勢が、強い反発を受けているのです。住民投票で誰もが納得できる判断を議会が伯仲状態にある以上、議会の判断だけで合併を決めようとするれば混乱は続くばかりです。議会が判断できない状態にあるならば、町民の意思によって判断する以

## 「議員の意見すなわち町民の意見」と、町長は言いますが……

鶴岡市中心の合併に対する各議員の態度と2003年町議選での得票

賛成	得票数	反対	得票数
鈴木武夫	425	石井清則	519
本間信一	417	秋元和夫	386
牧耕三郎	391	板垣實	375
富樫栄一	384	梶昇司	371
今井勇雄	345	山口猛	368
加藤長二	337	太田一	334
寒河江健二	332	加藤元好	315
小野寺弘一	297	斎藤嘉一郎	300
富樫孝一	271	丸山博一	280
<b>合計</b>	<b>3,199</b>	<b>合計</b>	<b>3,248</b>
投票総数に占める割合	47.8%	投票総数に占める割合	48.5%

賛成議員と反対議員の得票差 49

上記以外の票

伊藤俊一	171
無効投票	73
<b>合計</b>	<b>244</b>

落選者の得票や無効投票は「死に票」になってしまうため、これらの票に託された町民の意思は議会の判断に反映されなかった、とも解釈できる。

中村町長は、「合併の可否を住民投票で決めるべき」という議員に対し、「町民の代表である議員の意見が町民の意見である」と述べてきました。

しかし、昨年行われた町議選で、鶴岡市中心の合併に賛成の議員と反対

の議員に投じられた票の差はわずかに票で、反対議員の方が勝っています。賛成議員、反対議員それぞれの合計得票数は、いずれも過半数には達していません。(上表参照)

そもそも、すべての議員(候補者)が選挙で合併問題を訴えたわけではありませぬ。また、有権者も合併問題だけで判断を下したわけでもありません。それぞれの議員の支持者が、全員その議員と同じ考えを持っているとも限りませぬ。

22日の議会が審議を行わないまま閉会したことにより、28日に臨時議会が開会されることが、27日の町当局と議会代表の協議で決まりました。町当局は年内に合併を決めたいとしています。本町を含む南庄内6市町村の将来が決まる大事な議会です。みなさん、ぜひ傍聴しましょう。

第2回臨時議会は28日午前9時30分開会予定で、本町を含む南庄内6市町村の将来が決まる大事な議会です。みなさん、ぜひ傍聴しましょう。

## 臨時議会28日開会

外に方法はありませぬ。日本共産党はこれまで住民投票の実施を求め条例提案などに取り組みできました。議会の異常

事態を解決し、町民だれもが納得できる結論を導き出すためにも、住民投票の実施のために全力を上げる決意です。

南庄内の将来が決まる大事な議会をぜひ傍聴を